

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ウィズブック保育園入谷
施設所在地	東京都台東区松が谷4-1-3高松ハイム1階
法人名	株式会社アイ・エス・シー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

異文化探求「世界の違いに触れる」をテーマにしたあそびを子ども自身の気づきを出発点にして五感を刺激しながら乳幼児が楽しめる活動を広げていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

地域柄、園の周辺環境では外国の方と出会う機会も多く、子どもたちが日常の中で挨拶をしたり話しかけられたりと自然に“異文化に触れる体験”が生まれている。地域柄、園の周辺環境では外国の方と出会う機会も多く、子どもたちが日常の中で挨拶をしたり話しかけられたりと自然に“異文化に触れる体験”が生まれている。

保育の中でも英語の歌などを通じて、響きやリズムを「聴く・言う・まねる」などの様子から、言葉の違いから生まれる楽しさを感じる姿が見られている。子どもたちの違いに対する興味を深めるため、「言語感覚だけでなく、“文化そのもの”を感じとる経験」を大切にしたいと保育者から声が上がった。具体的には、英語の音を楽しむことに加えて、世界にはさまざまな言葉や表現があることに気づけるよう、五感を使った遊びや表現活動を取り入れていく。子どもたちが「なんだろう?」「おもしろい!」と感じながら世界への視野を広げ、多様な文化に触れる楽しさを味わってほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

- ②【問いを考える】 外国の人が話す挨拶や言葉を聞いて「どんなお話をしているのかな」「何と言っているんだろう」「どんな風に聞こえる」「英語で何と言うんだろうね」「どこが違う?」「どうしてそう思うの」等の問いを投げかける。
- ③【環境をデザインする】 自分たちが住んでいる環境と外国の違いが分かるように映像（視覚）（聴覚）からの情報を準備する。また、翻訳機を有効活用する。
- ④【探究活動を実践し記録する】 映像の背景から聞こえる音、感じたことを言葉で表現する子どもの姿を写真、映像、記録係がメモに記録する
- ⑤【振り返る・共有する】 活動を行った日の午後に参加した職員全員で記録の共有と振り返りを行う。保護者には連絡帳と園ブログを通じて活動の報告を行う。月末には今月の保育活動の一部として編集した映像を配信する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

講師委託料…ウィズブックEnglish オンライン学習講師

備品購入費…プロジェクター等の環境設備設定、活動や報告のための消耗品や教材費

環境設定…活動をイメージできるように写真を常に見える場所に掲示したり、英語のテーマに上がる関連するものを保育室の玩具に取り入れ日常的に触れられるように工夫をした。また、朝の会では日々継続して「英語では何と言うんだろう」という子どもの疑問を翻訳機を使って楽しみながらまねる機会をつくっていった。毎月の英語テーマ（「野菜」「動物」「乗り物」など）に合わせて教材を増やし、視覚から気づきを得たり、触れる中で工夫したくなるような“環境の仕掛け”を心掛けていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ウィズブックEnglishを通じて外国人の先生（外部委託）とオンラインで繋いで職員と一緒にやり取りや絵本の内容にあわせてジェスチャーを楽しみながら、「自分たちが使う言葉とは違う音の言語」に親しむ機会をつくっている。そこで活動の導入として、まずは外国の人が暮らす場所や、世界にはさまざまな言葉・容姿があることに気づく機会をつくった。プロジェクターを使用し、世界の人々の使う言葉や人々の映像を映すと、子どもたちは視覚や聴覚から多くの発見をしていた。興味をもった言葉については、活動の中で翻訳機を使いながら、「英語ではなんて言うの？」と子ども自身の疑問につなげ、言葉への関心を広げた。また、Englishで扱う「からだ」「動物」「野菜」「乗り物」などのテーマから、子どもたちの気づきをもとに、シルエット遊び、リトミック、聞き取り遊び、聞こえ方の違い、世界の食べ物、乗り物などへ活動を発展させ、乳幼児でも楽しみながら異文化の世界に触れられるよう工夫した。外国籍の保護者の方にもご協力いただき子どもたちからのインタビューに答えていただくなど英語に親しめる機会を増やしていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

■ 活動の内容

世界の挨拶や言語の違いに触れながら、外国の文化に興味を広げる活動を行った。世界地図を見たり、各国の挨拶を聴いたり、翻訳機を使って言葉を確認するなど、五感を使って楽しめる体験を取り入れた。また、覚えた単語をもとにシルエットクイズや音遊び・リトミック・世界の食べ物・乗り物あそびへと活動を発展させた。

■ 活動中に見られた子どもの姿

地図を指して「バナナみたいな形がある」と発見を楽しんだり、「ハロー？」「ニョハセヨ？」など挨拶の違いに驚く姿が見られた。また、外国の親子の会話を聴き、「お料理作るうって言ってるの？」と、言葉が分からなくても情景から意味を想像しようとする姿が印象的だった。

翻訳機を使い始めると「これは英語でなんて言うの？」と興味が広がり、「Let's play」など覚えた言葉を友だち同士の日常場面で使う様子も見られた。活動は他クラスにも波及し、縦割りの時間には2歳児の真似をしながら0・1歳児も動物の鳴き声クイズを楽しむなど、年齢を超えた関わりが生まれている。また、給食時に食材を見て「今日はcucumber入ってるね」と野菜を英単語でお話する姿も増えている。日々の疑問は「ジェフ先生に聞いてみよう」と講師を頼りにする姿もみられるようになった。クラフト制作では、「やってみたい」という気持ちが子どもたちの表現意欲につながり、作ったものを使った遊びへと発展していった。

■ 保育者との関わり

子どもの「知りたい」という気持ちを受け止め、翻訳機の導入や朝の会での“毎日の翻訳タイム”を設けるなど、興味が継続するよう環境を整えた。保育者が単語を提示するだけでなく、子ども自身が「今日はこれを聴きたい」と主体的に準備する姿を大切に、遊びへ発展できるよう見守った。その結果、言語の違いを自然に受け入れ、簡単な英語を日常で楽しむ姿が広がっている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動を通して、子どもたちの身のまわりには実は多くの英単語があふれており、日常生活の中で自然に理解している語が多いことに気づくことができました。また、翻訳機を保育に取り入れたことで、子どもたちから自発的に「これは英語でなんて言うの？」と尋ねる場面が増え、他言語への興味がより深まっていった。外国の方の話し方や聞こえ方の違いを楽しむ遊びでは、子ども自身が「自分にはこう聞こえる」と表現し合い、互いの感じ方の違いを受け入れる姿が見られた。特に、これまで「違うよ」と訂正する場面が多かった2歳児クラスで、相手の感じ方を尊重する柔軟さが育っていることを実感した。また、0・1歳児では、世界の映像や音に触れたことにより指差し行動が増え、大人の言葉への応答や共有を楽しむ姿が多く見られた。音の聞こえ方をまねたり表現したりする中で、「正しい・間違い」ではなく、感じたことを受け入れ合う経験が広がっているように感じている。今回の活動によって、子どもたちの興味関心が日常の遊びへとどんどん波及し、異文化への気づきが生活場面にも自然に入り込んでいることが大きな学びとなった。